

建築人

2023

9

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin" No.711





建築人

2023.09 No.711

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin"

表紙の建築 「介護老人保健施設はくほう」 2021年

第15回 建築人賞奨励賞 受賞作品

設計：森康郎建築設計事務所

施工：柄谷工務店

撮影：古川泰造

「終の棲家」ではなく、施設本来の目的である在宅復帰を促す、アクティブで開放的に視線が交錯する建築を目指した。入居者同士やスタッフ、家族、地域の多世代の方々との交流を誘発し、豊かな関係性を築く場づくりを通じて、在宅への想いや意欲を喚起する。

大阪こちエエ

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

今回は歴史ある四天王寺と祭りを取り上げたが、今回は歴史あるエリアで今も多くの人々で賑わう阿倍野・天王寺エリアにある、「あべのハルカス」を取り上げたい。阿倍野区は上町台地の高台に位置し、古くから交通の要衝として栄えてきた。このエリアの阿倍王子神社は仁徳天皇時代に創建されたもので、すぐそばには阿倍晴明誕生の地とされている安倍晴明神社があり、長い時間をかけて連綿と紡がれてきた歴史がある。1923年に大阪鉄道の大阪天王寺駅が開業し、そのころには人口が東京を超えて「大大阪」と呼ばれるようになった。1938年には「大鉄百貨店」が開業し、あべのハルカスの原型となる、ターミナル駅と百貨店によるまちづくりが始まった。

その後、残念ながら空襲で罹災してしまったが、1948年に近鉄百貨店阿倍野店として営業を再開し、周辺の商店街など共にまちが成長を遂げてきた。2000年代以降は、北区で大規模な再開発が進められ、このエリアの再開発も待ち望まれていた。2002年に大阪阿部野橋駅周辺が都市再生緊急整備地域に指定され容積率が1600%まで緩和されたことと、航空法の規制区域から除外されたことにより、高さ300mの超高層ビル計画を目指す条件が整った。

2007年に阿部野橋ターミナルビル整備計画を発表し、2014年にあべのハルカスを開業させた。

2023年には東京都港区で高さ330mの麻布台ヒルズ森JPタワーが開業するが、地上駅と一体型のあべのハルカスと歴史あるエリアとの魅力は見劣りはしない。次の100年続くまちづくりを目指していただきたい。

2 大阪こちエエ

4 Gallery 建築作品紹介

「ザ・バック 本社」

設計：竹中工務店

施工：竹中工務店

「SKY HOUSE」

設計：マニエラ建築設計事務所

施工：西友建設

「芦屋の家」

設計：大庭徹建築計画

施工：ヴィーコ

7 動静レポート

8 Information

10 Topics

11 News of Note

12 Close-up Osaka

14 記憶の建築

「東京都美術館」1975年

新たな文化活動が積み重ねられて / 松隈 洋

建築人 No.711 2023年9月号

監修 公益社団法人大阪府建築士会 建築情報委員会

編集 建築情報委員会『建築人』編集部

部門長：田鍋 稔

委員長：松下典央（編集人代表）

編集人：石上芳弘 梅田武宏 荻窪伸彦 笠井志保

河合哲夫 大松俊祐 橋本頼幸 北條豊和

牧野隆義 三谷勝章 武藤優哉 村上栄司

茂籠一之 山本恭史

事務局：隅原正太 母倉政美

ロゴ・フォーマットデザイン 芝野健太

印刷 中和印刷紙器株式会社

令和5年9月1日発行

発行人：会長／岡本森廣

発行所：公益社団法人大阪府建築士会

〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F

tel. 06-6947-1961



総合パッケージメーカーの本社建替計画である。建築主は創業地鶴橋での事業継続の想いから、約50年間建増しを繰り返してきた建屋を取り壊した上で隣接する地を新たに購入し、本社オフィスを一新することにした。戸建住宅やマンションが高密度に集積する環境の中、周辺のスケールと調和するようボリュームを分節することで圧迫感の低減を図り、プライバシーに配慮した開口のディテールとインナーテラスにより、近隣に配慮しながら開放的な執務環境を実現した。街とコアという2つのパブリックに挟まれたワークプレイスが、内と外、WORKとLIFEをつなぎ、創業の地鶴橋に活き活きとしたイノベーション溢れる場が生み出されることを期待している。（阿部敬一）

所在地：大阪市東成区
用途：事務所
竣工：2023.3
構造規模：S造
地上7階
塔屋1階
敷地面積：1,689.89㎡
建築面積：1,066.05㎡
延床面積：5,514.55㎡
写真：Nacása & Partners



西宮市甲陽園の中でも山手の目神山界隈は岩盤の上にある住宅地として知られる。敷地北側には一部岩盤が見え、南東方向には大阪湾まで見渡せる景観が広がっている。敷地内高低差が3段階に分かれており、真ん中のレベルがフラット面が多く、そこに建築する計画とした。北側には岩壁のための強固な落石防止柵をつくることとなり、限られたコストの中で造りなして、敷地の形状に逆らわずに寄り添う建て方とした。1階は各プライベート空間の居室と水廻りを設け、2階には家族空間のLDKを配置し周りの景観を一望出来るように南東側に大きく開口部を設けている。1階建物の一部を敷地に添って南東側に角度を変え、上階をバルコニーにすることで2階のLDK空間を最大限大きく確保することが可能になっている。

所在地：兵庫県西宮市
 用途：専用住居
 竣工：2023.02
 構造設計：土屋設計
 構造規模：木造
 地上2階
 敷地面積：574.63㎡
 建築面積：72.35㎡
 延床面積：111.61㎡
 写真：松村芳治



芦屋市内に立つご両親とお子さんのための住宅である。緑に囲まれて日々を過ごしたい、というのがご家族の要望だった。敷地内には、前庭、玄関庭、中庭、奥庭、屋上庭という大小5つの庭を配置し、各室の全ての窓から緑を楽しめるように計画を行った。また、この住宅からはもう1つの大きな「緑」を望むことができる。六甲山である。六甲山の稜線を望める場所を住宅の屋内外に設け、「近くの緑」と「遠くの緑」の双方を日常生活の中で感じられるようになっている。緑を楽しむのは住人だけではない。建物を道路から後退させ、道路境界にはあえて塀等を設けず道行く人と緑を共有できるような前庭をつくり、周辺の閑静な街並みにも配慮した。（大庭徹）

所在地：兵庫県芦屋市
用途：一戸建て住宅
竣工：2022.03
構造規模：木造
地上2階
敷地面積：282.59㎡
建築面積：112.64㎡
延床面積：158.08㎡
写真：笹倉洋平

動静レポート

会長動静

- 7/25 インドネシア総領事館懇談
- 8/ 1 高槻市長面談
- 8/ 3 兵庫県建築士会新旧会長送迎会
- 8/ 8 インドネシア共和国 Web 会議
記念行事部門長と全国大会協議
- 8/10～11 三進電気工業(株)福島工場見学
(福島県建築士会・遠藤会長同行)
- 8/18 大阪府採用委員会打合せ
- 8/21 日本建築士会連合会会議
- 8/23 全日本不動産協会コンペ審査会
- 8/24 在阪4団体会長・支部長会議
- 8/25 大阪府仲裁廷、豊中市長面談

会長・役員による府内43市町村訪問

- ◎ 8/1 高槻市・濱田剛史市長と面談



荻窪理事、横田副会長、岡本会長、濱田市長

- ◎ 8/25 豊中市・長内繁樹市長と面談



宮田理事、上田副会長、岡本会長、長内市長

インドネシア共和国総領事館訪問

7月25日に岡本会長他役員委員で在大阪インドネシア共和国総領事館を訪問し、両国間の建築に係る交流を深める懇談を行いました。

第一に、本会が海外建築団体と相互の親睦や技術紹介のために、これまで釜山廣域市建築士会、香港工業總會、上海市建築学会、ホーチミン市建築士会とそれぞれの団体の特長を踏まえた交流促進の協定を締結している国際交流の実績をご紹介します。インドネシア共和国におかれても総領事館を介して地元建築団体との交流協定のための協力をお願いしました。

第二に、2021年に国立教育訓練センター等との契約に基づき、本会主催による大阪での若手行政関係職員等を対象にした研修セミナーの実施が新型コロナウイルスのパンデミックにより中止された経緯を踏まえ、インドネシアの若手技術者の育成に協力すべく、あらためての同類企画の推進を国に具申請していただくをお願いしました。

上掲については領事各位に好意的に受け入れられ、今後の協力をご承引いただいて懇談を終えました。



(左～)表委員、中野委員、クロモネゴロ公使参事官、岡本会長、ハディ領事、森田特任相談役、萬川国際委員長

大阪府不動産鑑定士協会の役員挨拶

8月4日に大阪府不動産鑑定士協会の古谷副会長、池木広報委員長、富田前広報委員長が就退任挨拶に来会され、本会上田副会長他関係役員が応接しました。

不動産鑑定士が行う不動産評価は公的価格の指針や担保評価に用いられ、社会経済に大きな影響力があり、建築士はその評価根拠の一部となる建物の技術的な調査や判定などを担うことで両団体の関係性は重要であることを再確認しました。

2017年の相互協力に関する合意書に基づき、コロナ禍で中断していた共同研修や活動を再開して活性化を図ります。



(左～)富田前委員長、池木委員長、古谷副会長、(本会)上田副会長、田中部門長、西野委員長、佐賀理事

令和5年建築士学科試験 合格発表

令和5年二級建築士、木造建築士「学科の試験」の合格者が8月21日に発表されました。

(全国)

学科試験	二級	木造
実受験者数	17,805人	704人
合格者数	6,227人	459人
合格率	35.0%	65.2%

設計製図試験は、二級建築士は9月10日に「専用住宅(木造)」、木造建築士は10月8日に「専用住宅(木造)」の各課題で実施されます。

第3回近畿学生住宅大賞の実施

近畿建築士会協議会が主催し、本会が主管する第3回「近畿学生住宅大賞」を実施いたします。同賞は近畿圏内の建築系大学、高専、専門学校に在籍する学生の各学校の住宅課題として制作した作品をご応募いただき、社会性、文化性、芸術性の観点で優れたものを表彰し、勉学の励みにしていただくことを目的としたものです。

応募期間は9月1日～24日、詳細は本会ホームページをご参照ください。

近畿建築祭「和歌山大会」予告

本年度の近畿建築祭は、和歌山県建築士会が令和6年1月20日(土)和歌山城ホールで開催いたします。

コロナ禍の制限が緩和され、今回はリアル開催での準備を進めています。

Information

建築士会からのお知らせ

既存建築物耐震診断等の評価

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の学識者や実務者で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。不特定多数が利用する施設や沿道建築物など、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。スピーディな審査を心掛けておりますのでどうぞご利用ください。

(業務内容)

耐震診断報告書の審査、評価
耐震補強計画書の審査、評価 等

(対象建築物)

公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。

(会員特典)

申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の10%割引があります。

令和5年度 大阪府ヘリテージマネージャースキルアップ講習(全6日間)

9/11～9/25、10/22、2/10、2/24
CPD各4単位(一部単位なし)

本講習は、ヘリテージマネージャーのさらなるスキルアップを目的に行う講習会です。動画講習も含めて全6日間の講座で保存活用、調査や修復技術などを学びます。大阪府ヘリテージマネージャーで、昨年受講分も含めてすべての講習を受講された方には修了証書を授与予定です。詳細・申込は本会ホームページをご覧ください。

第3回 9/11(月)～9/25(月) 動画講習
テーマ 「文化財保存活用計画の意義とその実践」[保存活用地域計画と支援団体/保存活用計画について～和歌山県の活動から]

第4回 10/22(日) 13:00～16:00
テーマ 「重要文化財山本家住宅見学会と臨地講義」

講師 中川 等氏

会場 河内長野市 重要文化財山本家住宅

第5回以降は講師・会場調整中

日時 第5回 2/10(土)

第6回 2/24(土)

いずれも13:00～17:00(予定)

定員 各回40名(申込先着順)

受講料 各回ごとに参加費が変わります。

WEB講習会 建設工事の安全関係法改正のすべて!

～大阪府工事入札(実績申告型)の評価点追加対象講習会～
9/11～9/24 CPD3単位(予定)

安全関係法令の改正点のポイントをわかりやすく解説し、設計者及び工事監理技術者等に設計～施工にわたる安全・健康確保の措置や、建築労働者の意識向上を図る取組みについての講習を行います。※2021年12月15日の講習会を録画したものとします。
日時 9/11(月)10:00～9/24(日)終日
会場 Microsoft TeamsによるWEB講習会
受講料 建築士会会員2,000円
後援団体会員2,500円
一般3,500円

既存住宅状況調査技術者講習

新規講習10/11、1/18
更新講習12/13、3/13
CPD新規各5単位、更新各2単位

既存住宅状況調査は、登録機関の講習を修了した建築士のみ認められる業務です。ぜひ本講習で新たな業務の資格を取得してください。なお、2020年度に本講習を修了された方は本年度が有効期限となりますので、更新講習をご受講ください。

▼新規講習(DVD)

日時 10/11(水)、1/18(木) 9:30～17:00
会場 大阪府建築士会 東会議室
定員 30名(定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込21,450円
郵送申込22,000円

▼更新講習(DVD)

日時 12/13(水)、3/13(水)
13:30～16:50
会場 大阪府建築士会 東会議室
定員 30名(定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込17,000円
郵送申込17,600円

▼申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。上記以外にオンライン講習も開催いたします。

令和5年度監理技術者講習

(監理技術者以外の方も受講可能)
11/22、1/26、2/14、3/8 CPD各6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。なお、監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講が可能です。日頃の工事監理業務に役立ちますので、ぜひご受講ください。
日程 11/22(水)、1/26(金)、2/14(水)、3/8(金)
時間 8:55～17:00
会場 大阪府建築士会 東会議室
定員 各回30名(定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込み9,500円
郵送申込み10,000円

申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。

<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html>

令和5年度建築士定期講習

11/30、12/22、1/30、2/6、3/29
CPD各6単位

建築士法の規定により、建築士事務所所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は令和2年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

▼対面講義

日程・会場・定員
※2/6(火) 大阪YMCA会館 200名

▼DVD講義

日程・会場・定員
11/30(木) 大阪府建築健保会館 90名
※12/22(金) 大阪府建築健保会館 90名
1/30(火) 大阪府建築健保会館 90名
3/29(金) 大阪府建築健保会館 90名
時間 9:15～17:00(各講習日共)
受講料 12,980円(消費税含。事前振込)
申込方法

申込用紙を建築技術教育普及センターHPからダウンロードしてください。(令和2年度受講者には、同センターから直接申込書を郵送しています。)
ご記入後、大阪府建築士会事務局又は大阪府建築士事務所協会事務局へ持参していただくか、簡易書留にて郵送してください。
受付場所(送付場所)

※印の日程 大阪府建築士会事務局
※印以外の日程 大阪府建築士事務所協会事務局

建築技術教育普及センターHPからWEB申込みも可能です。

<https://jaeictkosyu.jp/jaeicteikikosyu/>

注)各回定員に達し次第、受付を終了します。

第3回近畿学生住宅大賞

9/1～9/24

近畿建築士会協議会では、近畿圏内の建築系大学、高専、専門学校に在籍する学生個人(院生は除く)の各学校の住宅課題で行われた住宅課題全作品を対象とした「近畿学生住宅大賞」を開催いたします。詳細は本会HPをご覧ください。
応募期間 9/1(金)～9/24(日)

2025年建築士会全国大会「大阪大会」プレ企画「大断面・特殊加工工場見学」

9/8 CPD2単位(予定)

第1部 丹波篠山工場:在来軸組プレカートの見学

第2部 三田工場:大断面・特殊加工機「フンデガーK2i」でのリング部分の加工見学

日時 9/8(金)
13:00 集合
集合場所 JR篠山駅東口1階
ロータリー

13:30～14:00 受付(時間厳守)
丹波篠山工場にて受付
14:00～14:45 丹波篠山工場の見学
15:45～17:00 三田工場見学・全体質疑
→解散/懇親会会場へ(希望者)

会場 ㈱岡本銘木店

丹波篠山工場(兵庫県丹波篠山市378-1)
三田工場(兵庫県三田市大川瀬1510-1)

講師 岡本尚哉氏

(㈱岡本銘木店 取締役専務兼工場長)
眞野智史氏
(㈱岡本銘木店 課長)

定員 30名(申込先着順)

受講料 建築士会会員1,000円
一般2,000円

竹原義二氏講演会

+ユニソン大阪事業所見学会

9/8 CPD3単位(予定)

ガーデンエクステリア事業やランドスケープ事業、温熱環境事業を手掛ける株式会社ユニソンが2021年3月に開設した大阪事業所の見学会を実施します。本事業所は2023年度建築人賞を受賞し、設計した竹原義二氏の視点や本事業所の設計手法を学ぶための講演会も行います。

日時 9/8(金) 13:30～17:00

会場 ユニソン大阪事業所

(大阪市鶴見区茨田大宮2-8-13)

大阪メトロ長堀鶴見緑地線

門真南駅下車 徒歩5分)

定員 40名(申込先着順)

受講料 建築士会会員2,500円

後援団体会員3,500円

一般4,500円

移情閣と明石海峡大橋舞子海上プロムナードを巡る

～詩歌に詠まれた景勝地その文化と変貌にふれるひととき～

9/15 CPD1単位(予定)

兵庫県を代表する景勝地、舞子公園周辺を巡るひとときを企画しました。

移情閣の建物についての逸話をお聞きするほか、変貌をとげた舞子公園を訪れます。



日時 9/15(金) 14:00～16:30

集合・受付 13:45～

集合場所 JR舞子駅

(参加証に詳細記載)

会場 移情閣・明石海峡大橋舞子海上プロムナードほか

解説(移情閣にて)

INFORMATIONの詳細及び申込みは本会ホームページに掲載しています。

【大阪府建築士会】大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5階

http://www.aba-osakafu.or.jp/ メール info@aba-osakafu.or.jp TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103

（榎藤木工務店 ご担当者様
定員 25名（申込先着順・若干名キャンセル待ち受付）
参加費 建築士会会員2,000円
一般3,000円
（移情閣・海上プロムナードの入館料を含みます）
申込締切 9/5（火）

建築相談委員会 住宅を設計する仲間連
部会企画セミナー&交流会
BIMで変わる住宅設計のこれから
9/29 CPD2単位

今後、BIMは設計者にとって欠かせない道具となる可能性があります。また国土交通省はBIMのデータを用いた確認申請を2025年に試行すると発表しています。BIMは大型の建築に有効と思われるが、住宅設計にも多く使用されており、様々な効果が表れています。今回は、BIMを使って多くの住宅を設計されているアトリエスイッチの完山氏に、BIMを活用した住宅設計手法のお話をさせていただきます。また、笠松堂の笠松氏より、BIMとは何かということ、導入に関する有用なお話をさせていただきます。
日時 9/29（金） 18:30～20:30
場所 大阪府建築士会 東会議室
講師 完山 剛氏
（アトリエスイッチ一級建築士事務所 笠松哲司氏 榎笠松堂
参加費 会員1,000円 会員外1,500円
定員 30名（申込先着順）

建築士の会 東大阪 公開企画 石切回廊見学会！
石切回廊と石切参道商店街
一点・線・面へつながる産学連携のまちづくりー
9/30 CPD4単位（予定）

東大阪市東部の生駒山麓、石切劔神社の鳥居前に昨年7月に、地域活動の拠点+商業施設として石切回廊が竣工しました。近畿大学と地元の建築士・庭作家・デザイナーらが4年以上に渡り、協働で企画・設計から運営にまで携わっており、参道商店街を含めた地域活性化の拠点となっています。今回は、企画・設計・運営サポートの案内の元、「石切回廊」とそれに続いてサテライトキャンパスとしても活用中の「ひらくきち」を中心に、石切参道商店街全体を散策します。
日時 9/30（土） 13:30～17:00
場所 石切回廊、ひらくきち、石切参道商店街
参加費 会員1,500円 非会員2,000円
学生・新入会員500円
定員 30名（申込先着順）
申込締切 9/22（金）

第67回建築士全国大会 大阪大会プレ企画
第65回建築士全国大会 しずおか大会を知る！
「東西に分かつ静岡の食文化！」
10/5 CPD2単位（予定）

富士山・遠州灘・伊豆海岸等、個性ある地形と風土を持ち、日本の全ての食文化があると

も言われる「静岡」を学んで、「第65回全国大会しずおか」に行きましょう。静岡県立大学名誉教授 新井映子先生をお迎えして、静岡の食文化をweb講義頂きます。雑学としての建築知識の食文化を切り口にして、歴史と文化の伝承について考えます。是非、ご参加下さい！
日時 10/5（木） 16:00～17:30
会場 大阪府建築士会 東会議室
ZOOMによるWEB配信セミナー併用
講師 静岡県立大学名誉教授
新井映子氏
参加費 会員1,000円 会員外2,000円
定員 25名（申込先着順）+WEB参加
申込 大阪府建築士会 シニアサロン

建築士の会 南河内 地域歴史文化探訪
～太子町「梅鉢御陵」を訪ねて～
10/7 CPD2単位

私達建築士にとって各々の地域の歴史文化を学ぶことはとても有意義だと考えます。とりわけ南河内には古墳時代のレガシーが色濃く残っています。竹内街道の沿道にある太子町には、二上山麓の谷あいに約30基からなる磯長谷古墳群（しながだにこふんぐん）があり、皇族の陵墓が集中していることから、周辺は王陵の谷（おうりょうのたに）とも呼ばれています。その中の天皇陵4基と聖徳太子廟の5つの古墳は、梅の花びらになぞらえて梅鉢御陵（うめばちごりょう）と称されます。今回は、この御陵と竹内街道沿に行む大道旧山本家（国登録有形文化財、2004年改修/設計：石井智子氏・美建設）を訪ねます。
日時 10/7（土） 13:00～17:00
雨天決行
集合 12:00 近鉄長野線「喜志」駅東口広場
（集合後バスで叡福寺まで移動します）
コース 徒歩約6km（約4時間）
叡福寺→西院院→用明天皇陵→旧山本家→孝徳天皇陵→推古天皇陵→敏達天皇陵（解散後バスで喜志駅又は上ノ太子駅へ）
案内人 観光ボランティア『太子街人（ガイド）の会』
募集 20名（申込先着順）
申込締切 9/25
参加費 会員1,000円 会員外1,500円
※懇親会参加の場合は別途懇親会費徴収

第66回大阪建築コンクール
受賞者講演会+トークセッション
10/13 CPD2単位（予定）

大阪建築コンクールは、建築士と社会との関わりを通じて建築作品を評価し、そのすぐれた実績をたたえ、建築作品の設計者を表彰するものです。第66回を迎えた今回、大阪府知事賞部門および渡辺節賞の受賞者による講演会とトークセッションを企画しました。受賞作品のお話はもちろん、建築に対するそれぞれの思いを語っていただきます。また、審査委員とのトークセッションやパネル

展示も行います。
日時 10/13（金） 18:30～21:15
会場 大阪工業大学梅田キャンパス203
大阪市北区茶屋町1-45
参加費 無料（申込不要）

建築士・市民にとって「団地」から考える建築・まちづくり（No.2）
まちの景観としての団地
～千里ニュータウンまち歩き～
10/14 CPD3単位

まちや景観を形成してきた団地、珍しい高層のスターハウス、団地マンホール、映画『黒の凶器』/1964年のロケ地だった近隣センター、美しい公園など、千里ニュータウンを建築士と市民と一緒に歩き、団地の歴史と現在、建築・まち・景観を考える。是非ご参加ください！
日時 10/14（土） 13:00～16:00
行程
千里ニュータウン情報館～UR千里竹見台団地～千里グリーンヒルズ竹見台～UR都市機構空家住宅（予定）～千里南公園～高野台診療所～高野台近隣センター～佐竹台近隣センター～佐竹公園～OPH千里佐竹台～千里ニュータウン情報館
定員 20名（申込先着順）
参加費 500円（学生無料）

エレベーター構造見学会及び無人搬送機との連携
11/16 CPD1単位（予定）

知っているようで知らないエレベーターの構造をスケルトン昇降機と自動搬送ロボットとの連携の様子を実機にて説明させていただきます。
日時 11/16（木） 14:30～16:30
会場 クマリフト株式会社
R&Dセンター及びテクニカルセンター
定員 24名（申込先着順）
受講料 建築士会会員500円
一般1,000円

第18回国際企画海外研修旅行
「ヒューデックの足跡を巡る～上海の作品群を見て回ろう グルメも芸術も盛り沢山」

2019年に交流協定調印した後コロナで行けなかった上海を訪れ、上海市建築学会との交流をします。またヒューデックの作品等を視察します。
日程 2024/2/22（木）～26（月）
行先 上海市各所
定員 30名
※最低催行人員10名
参加費 217,000円（燃油サーチャージ・空港諸税等別途負担あり）
締切 11/30（木）
CPD 申請予定

行政からのお知らせ

『大阪府構造計算適合性判定 指摘事例集 ーよくある指摘事例とその解説ー』2021年版（2023年一部改正版）に関する説明会のお知らせ
10/6

大阪府及び府知事が構造計算適合性判定を委任する機関〔（一財）大阪建築防災センター、（一財）日本建築総合試験所、（一財）日本建築センター〕において、構造計算適合性判定をより円滑に行うという観点から、蓄積された判定事例をもとに、「大阪府内構造計算適合性判定 指摘事例集ーよくある指摘事例とその解説ー 2021年版」を取りまとめ、これまで構造計算適合性判定の実務において多くの皆様にご活用いただいております。このたび、一部改正を契機として、構造設計に関わる方を対象とした説明会を開催いたしますので、ご案内いたします。なお、当該説明会は建築士会CPD制度及びJSCA建築構造士登録更新評価点の講習会の対象になります。
日時 10/6（金） 13:30～17:00
会場 大阪府庁 新別館南館8階大研修室
定員 300名（申込先着順）
参加費 無料
問合せ先 大阪府都市整備部住宅建築局 建築指導室建築安全課
Tel.06-6210-9727
https://www.pref.osaka.lg.jp/kenshi_anzen2/tekihannsetsumeikai/index.html

本誌Galleryに皆様の建築作品を掲載しませんか？

本誌「建築人」は毎月約3,000部を発行し、本会会員をはじめ官公庁、大学、図書館、出版社、報道機関等に頒布しています。ぜひ本誌Galleryに皆様の建築作品を掲載しませんか。なお、掲載作品は本会が表彰する「建築人賞」の候補となります。掲載ご希望の方は、お気軽に事務局までご連絡ください。

- 掲載記事 1頁カラー、写真4点程度（詳細は本誌Galleryページ参照）
- 掲載費用 100,000円
※1 初回割引80,000円（設計者および施工者が過去10年間、Galleryに掲載されていない場合）
※2 若手初回割引50,000円（40歳以下かつ建築設計事務所を主宰され※1を満たす方）
- 詳細・申込 事務局担当：母倉
e-mail: info@aba-osakafu.or.jp
TEL: 06-6947-1961

大阪城公園で平和について考えよう ～戦いの記憶に触れるウォーキング～

日時：令和5年6月3日(土) 14:00～16:00

場所：大阪城公園

参加者：10名

梅雨の晴れ間で新緑の映える大阪城公園内を巡る企画に参加しました。公園北西の京橋口を東へスタートし、大阪城ホール前の青屋口で外堀を渡り、本丸を南下し森ノ宮側のピース大阪(大阪国際平和センター)前まで約2時間のウォーキングでした。

普段何気なく歩いているだけでは気付くことのない大阪城境界に残る旧陸軍の建物(旧第四師団司令部庁舎など)やアジア最大規模の軍事工場であった大阪砲兵工廠の遺跡(旧化学分析場など)、また大阪城石垣に生々しく残る機銃掃射痕や1t爆弾の損傷など数々の戦争の爪痕を大阪観光ボランティアガイド協会の方の詳しい解説による案内で巡り、改めて戦争の悲惨さ・虚しさを知る機会となりました。撤去されることなく廃墟となっている建物、逆に博物館やテナント施設として有効利用されている建物、それぞれ事情があるにせよ建物の運命が時代の流れなどに

より左右されていく姿を見て、侘しくも新たな感情がありました。

また途中では、設計・監理をしている建築設計事務所の方(会員)による天守閣横で工事中の「豊臣期石垣公開施設(博物館)」の設計・工事概要説明も聞くことができました。工事中も遺構の地盤を傷めないよう、また石垣の石表面の劣化が進まないよう慎重に工事を進める必要があるとのこと、2025年日本国際博覧会開催までに完成予定とのことでした。

当日は、コロナ禍も収まり外国人観光客も非常に多く、大阪城天守閣を中心に人気スポットであることが改めて感じられました。当然、戦国時代の城(天守、城壁など)を目当てのようですが、日本人にはもちろん外国の方、若い方にも今回のような戦争の爪痕を巡るガイドツアーは非常に貴重な機会になるのではと思いました。



後呂卓伸(建築士の会 大阪市東)

終了後は懇親会も行われ、楽しく参加者の皆さんとの交流を深めることができました。また、大阪観光ボランティア協会では、今回とは別に大阪城石垣刻印(文字・記号)を巡るコースなどもあるので、機会があれば参加したいと思います。



石垣に残る機銃掃射痕

建築相談室から(75) 建築士でないといけませんか

前は「建築士(建築士会)では、お答えにくい・・・」というものを取り上げましたが、今回は「建築士に聞いてみたい」という相談を取り上げます。建築士会が実施している電話相談だから気軽に聞けることなのかもしれません。

床が抜けた

鉄骨造で賃貸のマンション。修繕工事中に2階の床ALCが抜け落ちた。現状とリフォーム業者が行っている対策方法に心配があるから見に来てほしい、という相談。現地相談でも一定のアドバイスは可能だが、短時間なので限界がある。それでもならホームページで申し込んでほしい、とお伝えしていますが、「急いでいる。待っている間が無駄になるかもしれないので、他に相談してみる。」といわれたようです。

防音間仕切りをしたい

2階にしているアップライトピアノを隣の

部屋に移動して防音間仕切りを作りたい。吸音材をどうしたらいいか?という相談。こちらも一応「電話だけではアドバイスに限界がある。現地相談はどうか?音のことは専門家に相談した方がいい」というやりとりをしています。

どんな建物でも監理を依頼する必要があるか新築を計画中だが、木造2階建て延床100㎡以下では建築士の関与は不要ではないのか?という相談がありました。相談担当者も「基本的にはそうで、法律上必須ではないが、誰でもできるものではなく、建築士に関与してもらった方がいいと考える。」と答えています。

マンションリフォームに建築士は必要かマンションの専有部分の修繕やリフォームを計画する際に、設計や監理をするのは建築士でないのだめなのか、という相談。「法律上必要ない規模も多いと思われるが、経験

橋本頼幸(建築相談委員会幹事)

や知識の面から建築士が望ましいと思う。」と相談担当者も答えています。

窓にオーニングはつけられないのか
リフォーム業者に防火地域なので窓にオーニングはつけられないと言われたが本当か?という相談。「防火地域においては外壁と開口部の防火性能について求められているがオーニングはどちらにも当たらないので設置は可能。ただし火災のことを考えて燃えにくい材料にしておく等は考えておかれては」と。建築士だから・・・

実際実務では建築士でなければいけない業務というのは限定的です。一方で建築士としての経験や知識があるからこそアドバイスできること、みえることもたくさんあります。「建築士だから」聞いてよかったと思ってもらえるような対応が、本会相談室としても建築士個人としてもできるように心がけたいものです。

『まちをつくろうー親と子の都市と建築教室ー』



青年・女性委員会 委員 浅井駿平

『まちをつくろう』とは

まちをつくろう(以下、まちつく)は大阪市立住まい情報センターにて、夏休みの2日間に渡り開催されるワークショップです。

小学生とその保護者に向けて、まちに建物を建築する中で、近隣の建物や人との繋がりを体験、学習していただく企画です。

大阪市立住まい情報センター、(一社)日本建築学会近畿支部、(公社)大阪府建築士会の共催及び、ボランティア大学生の協力により計61名(2023年度)のスタッフにより実施しました。

2001年より毎年実施していますが、2020年よりコロナウイルスによりオンラインによる実施となっております。23回目となる本年度は、制限が緩和され2019年以前同様の対面実施となり、29組の参加者とともに会場いっぱいのまちをつくりました。

まちつくでは、毎年まちのテーマを設定し、まち全体に統一性を持たせており、本年度のテーマを『地球とともに暮らすまち』と設定しました。地球で暮らす中で、エネルギー不足や自然災害との向き合い方や、動物や緑との共生について建築を通じて考えながらまちづくりを行いました。(写真1)



(写真1) まちつくの様子



(写真2) 講評と表彰式

まちつくの目的

まちつくの運営の中で『未来の建築士を育てる』『まちづくりに関心を持ってもらう』という2つの目的をもって実施しています。

子どもたちが、ものづくりの楽しさや建築、まちづくりの面白さに触れてもらうきっかけを提供すると共に、スタッフとして参加いただくボランティア大学生に対しても、プロの建築士と一緒に設計や組立作業をする中で学びや繋がりを得て将来に役立ててほしいと考えています。

また、まちづくりに関心をもってもらうきっかけとして、とても重要な機会と考えています。参加者自らが、まちと自分の繋がりを考える体験をすることで日常生活の中でまちづくりについて考える大切さに気づいていただけることを目指しています。

本年度の実施報告

まちつくは3つのフェーズでまちづくりを行いました。(図1参照)

①勉強…大学生より、まちの成り立ちやテーマに基づいた内容をプレゼンします。

②設計…子どもたちがどんな建物を作り、どうまちと繋げるのか、絵や図を描きます。

③組立…設計図をもとに、段ボールで建物を作ります。限りある材料の中で様々な工夫や表現方法で建物とまちを作り上げます。

完成したまちの中で、各チームの講評と表彰式を実施し、(写真2)最後に、まち全体の集合写真を撮影しました。(写真3)

本年度も参加者の楽しそうな表情とスタッフの方々の素晴らしいサポートにより無事終了を迎えました。来年度以降も引き続き頑張りたいと思います。

勉強



まちのなりたちや今年のテーマ『地球とともに暮らす方法』について勉強会を実施しました。

設計



チームに分かれて、自分が作る建物の設計図を作成しました。建物がまちどう繋がるかのアイデアも設計の中で検討します。

組立



設計図をもとに、段ボールで建物をつくりました。限られた材料をチームで分け合う中で、コミュニティについても学びます。

(図1) まちつく2023の流れ



(写真3) 完成後のまちで集合写真

「生きた建築」の魅力あふれる都市・大阪をめざして



大阪市 都市整備局 企画部 まちなみ環境担当課長 若井富美代

1. いつもとは一味違う大阪

「大阪」と聞いて、みなさんは、まず何を思い浮かべるでしょう。お笑い、粉もん、ネオン看板、USJ、ヒョウ柄・・・もちろん、それらは大阪の大きな個性。多くの人々がイメージする「いつもの大阪」です。

対して、大阪市都市整備局の「生きた建築ミュージアム事業」は、大阪のまちを一つの大きなミュージアムと捉え、そこに存在する「生きた建築」を通して、大阪の新しい魅力、「いつもとは一味違った大阪」を創造・発信する取り組みです。

2. 「生きた建築」という新しい価値

「生きた建築」とは、事業の中で新しく定義したことばで、「ある時代の歴史・文化、市民の暮らしぶりといった都市の営みの証であり、様々な形で変化・発展しながら、今も生き生きとその魅力を物語る建築物等」をいいます。様々な時代の面影を残す「生きた建築」が身近にあふれ、当たり前のように、生き生きと使いこなされている大阪だからこそ、その価値をあらためて認識することで、大阪の魅力をより深く理解し、まちへの関心や愛着、市民であることへの誇りを一層高めていただけないか、という思いで事業を進めています。

○大阪セレクション第2期選定から（全47件は大阪市ホームページで公表中）



写真上（左から）天満屋ビル、OMM、あべのハルカス

下（左から）相互タクシー北新地のりば、大阪ガス実験住宅NEXT21、ガラスブロックの家*（※撮影：西岡潔）

3. 大阪セレクション

「生きた建築」という新しい概念を広く市民のみなさんに周知し、ご理解いただくため、様々な分野の専門家等から成る「有識者会議」の意見を伺いながら、代表的な生きた建築を「大阪セレクション」として選定しています。

○大阪市生きた建築ミュージアム推進有識者会議

氏名	所属	専門
橋爪 紳也	大阪公立大学研究推進機構 特別教授	都市文化
嘉名 光市	大阪公立大学大学院工学研究科 教授	都市計画・景観
倉方 俊輔	大阪公立大学大学院工学研究科 教授	建築史
澤田 充	株式会社ケイオス 代表取締役CEO	地域活性・ブランディング
高岡 伸一	近畿大学建築学部 准教授	建築計画・ストック活用
玉川 弘子	大阪商工会議所 地域振興部長	地域振興
長町 志穂	株式会社LEM空間工房 代表取締役	照明デザイン・夜間景観

当初選定は、エリアを都心部に限定して、事業を開始した2013・2014年度に行いました。その後の事業の発展を踏まえて、今年2023年5月にはエリアを市域全域に拡げて、第2期選定を実施しています。

当初50件、第2期47件、あわせて97件の「大阪セレクション」は、歴史的な建築から現代の超高層ビルまで、有名建築家の作品から昭和の雰囲気を残す喫茶店・バーまで、建築としての質の高さはもちろん、時代の流れや多様で豊かな大阪の都市としての物語性が浮かび上がってくるような構成となっています。

4. 生きた建築の魅力に触れる

大阪セレクションの選定とあわせて、力を注いできた取り組みが「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪（通称：イケフェス大阪）」です。建築の魅力は、実際にその姿や空間を体験してはじめて理解されるところが大きいことから、ロンドンの建築公開イベント（OpenHouseLondon）を参考に、事業の一環として開始したもので、毎年秋の週末2日間を中心に大阪の生きた建築を特別公開しています。現在では150件以上の建築に公開協力いただき、全国から延べ5万人が訪れる、大阪発・日本最大級の建築公開イベントとして定着しています。

○昨年の様子（毎年人気のガイドツアー：輸出繊維会館）



主催を市から民間主体の実行委員会に移し、イケフェス大阪は、今年、通算10回目の開催を迎えます。記念となる年に相応しく、参加建物数も過去最大となる見込みで、大阪セレクション第2期選定と連携した特別なプログラムも予定しています。生きた建築を愛し、イケフェス大阪を支えてくれたみなさんと一緒に目一杯楽しめる2日間をしたいと考えています（イケフェス大阪2023 メイン期間：10/28土・29日）。

5. これから

「大阪市生きた建築ミュージアム事業」は、建物所有者をはじめ、企業・大学、専門家、市民・ボランティアなど、多くの方々に支えられ、10年以上続く大きな取り組みへと成長してきました。こどもたちや海外からの来訪者など、大阪の建築・魅力を知ってほしい人たちがまだまだいます。そのためにも「生きた建築」の魅力あふれる都市・大阪の実現に向けた次への一步を、気持ち新たに踏み出していきたいと思えます。引き続き、応援・ご協力をお願い申し上げます。

駅前再開発を起点とした地域づくりと観光振興



富田林市 産業まちづくり部 商工観光課 課長 山本 泰

わがまち富田林

富田林市は、大阪府の東南部に位置し、自然と歴史に恵まれたまちです。市の北東平坦部は、南北に流れる石川をはさんで平野が広がり、古くからまちが開けたところで、特に寺内町には歴史的に貴重な町並みが残されています。

一方、市の南部は、雄大な金剛・葛城連峰を背景に緑豊かな丘陵と美しい田園風景が広がり、自然景観にあふれています。また、西部丘陵地域は、計画的に開発の進んだ環境水準の高いニュータウンとなっています。

「富田林駅南地区」は、本市の中心市街地として、また、市の玄関口はもとより、大阪府で唯一の重要伝統的建造物群保存地区として全国に誇れる「富田林寺内町」を擁しています。

域内の「城之門筋(市道富田林6号線)」が「日本の道100選」に、寺内町が地域として「美しい日本の歴史的風土100選」にも選定されるとともに、まちの中心となる興正寺別院の建物群は平成26年9月に国の重要文化財に指定されています。

富田林寺内町の成り立ち

富田林寺内町は兵火と一揆の絶え間が無かった16世紀半ばの戦国時代に石川のほとりにできたまちです。永禄初年(1558~1561年)京都興正寺の第16世僧侶“証秀上人”が守護代から「富田芝」と呼ばれる荒芝地を購入し、中野村・新堂村・毛人谷村・山中田村の近隣4ヶ村の有力者2名ずつ、8名(「富田林8人衆」)の協力を得て荒芝地を開発し、御坊(興正寺別院)の移転建立と共に町割りなどの整備が行われました。

これが、現在も人が暮らす富田林寺内町とその中心である興正寺別院の始まりです。



富田林駅南地区再開発

西部丘陵地区である金剛団地の開発が進む中、東南部平坦地である富田林駅周辺の旧市街地の中心性は徐々に薄れてきました。富田林駅前大通り商店会を中心に駅南地区再開発事業の要望がありましたが、バブルの崩壊や経済低迷などが理由で、事業の実現には至りませんでした。

しかしながら、平成17年3月に都市再生整備計画事業に採択されたことにより、駅前広場の拡張整備事業等とそれに連携したまちづくり支援活動事業が進んでいくことになります。

地域づくりと「じないまち四季物語」

駅前再開発を背景に、地域のまちづくり活動も活性化していきます。これまでも地元で活動を行う「富田林寺内町をまもり・そだてる会」など地域の団体や商店会を中心に行政も交えて、平成20年に「富田林駅南地区まちづくり協議会」が設立されます。

協議会では、重点プロジェクトの一環として、富田林寺内町の四季折々の姿・魅力を地域内外に広く発信し、まちへの来訪者・リピーターを増やしていくことを目的に、「じないまち四季物語」と銘打った年4回のイベントを開催し、現在も、市内外から多くの来訪者を集めるイベントとなっています。すでに協議会は解散していますが、「じないまち四季物語実行委員会」によって引き継がれています。

四季物語イベントと観光振興

春「じないまち雛めぐり」は、3月の第2土、日曜日の2日間開催され、地域内の町家・民家の軒先等100箇所程度に雛人形を飾るイベントです。約15,000人が訪れる、富田林駅南地区最大のイベントとなっています。



夏「寺内町燈路」は、8月の第4土曜日に開催され、約1,000基の行灯で幻想的に演出された夜の富田林寺内町かいわいの町並みを楽しむイベントです。



秋「後の雛まつり」は、10月の第2土曜日に、重用の節句に合わせて町並みの中に菊花とお雛様を飾るイベントで、旧杉山家住宅では野点会等も開催しています。



冬「新春・初鍋めぐり」は、地域の商店会やまちづくり団体、店舗等がそれぞれのオリジナルの鍋料理をふるまい、寺内町かいわいの冬のたたずまいや温かさ、賑わいを来訪者に楽しんでもらうイベントですが、ここ数年は新型コロナウイルスのまん延により、飲食を伴わない内容に変更してイベントの開催を継続してきました。

このように、富田林寺内町では、来訪者を飽きさせない四季折々のイベントや町家を活用した新たな店舗などにより、リピーターも多く訪れていただいています。また、平成27年には富田林駅南地区のランドマークとして「観光交流施設きらめきファクトリー」が完成し、観光案内はもちろん、観光情報の発信や各種イベント開催など本市の魅力発信事業も行っています。

関西の名所観光地である京都や奈良などとはまた違った、「賑わい」と「おちつき」のあるまち富田林寺内町に、ぜひ、一度お越しください。

新たな文化活動が積み重ねられて

東京都美術館 一九七五年

文・写真 松隈 洋 [神奈川大学建築学学部教授]

二〇二三年七月一日、久方ぶりに、東京の上野公園にある東京都美術館を訪れる機会があった。前回は、二〇一二年八月二五日、敷地東側の企画展示棟の改築を伴う丸二年間の本格的な改修工事の竣工後に行われた一般向けの建物ツアーの案内役を務めた時なので、十一年ぶりとなる。この時は、改修によって何がどう変わったのかをその場で初見して解説する慌ただしい役回りであったため、落ち着いて観る余裕はなかった。

地下1階エントランス・ホール。北側へ拡張され広がった。



南側の正面アプローチからの全景。右側が改築された企画棟。



今回は、美術館の建築的な魅力を発信するアート・コミュニケータのたの勉強会「建築実践講座」の講師だったため、その前に、美術館に込められた考え方と改修の意図を一人静かに確かめる時間を持つことができた。また、この日は、それ以上に感慨深く思い出されたことがあった。

それは、さらに遡る二〇一〇年四月三日、改修工事の着工直前に催された「おやすみ都美術館／建築講座―東京都美術館の魅力とは?」と題する

初の一般向けの建築セミナーで、建築評論家の長谷川堯（一九三七―二〇一九年）と、「前川國男の建築と東京都美術館」というテーマで語り合った対談である。なぜ村野藤吾の研究として著名な長谷川が前川を語るのか、と不思議に思われた参加者も多かったに違いない。けれども、筆者にとって、印象に残る忘れがたい催しとなった。

長谷川は、二〇〇八年、武蔵野美術大学教授を停年退職するにあたり、建築家に関する論考をまとめた著書二冊を上梓する。その中で、唯一の書き下ろしの長文で巻頭に収録されたのが、「論考―前川國男「告白」についての読み直し」（『建築の出自』鹿島出版会）である。どのような思いから前川論は記されたのか。そこには、長い前史があった。

最初の著書『神殿か獄舎か』（相模書房一九七二年）の中で、長谷川は、後藤慶二ら、「獄舎」建築に「自己の確立を求め、その内面的な深さを建築設計に体现させようとしていた」大正の建築家の再評価を展開する。この時、彼らとは対照的な「鬼子（おにご）」、すなわち、親に似ぬ手のつけられない「昭和建築の申し子」として、一九二八年に東京帝国大学建築学科を卒業した前川國男や谷口吉郎の名を挙げたのだ。なぜならば、前川らが目指す「合理主義」の建築は、明治から続く国家主義的な「神殿」建築として、「国家権力の組織的実利的発効のために容易に併合されてしまふ運命」と危うさを抱えていると思えたからである。おそらく、この眼差しが、長谷川を村野藤吾の評価へ導いたものだったに違いない。

しかし、その三六年後に書き下ろされた前川論では、『神殿か獄舎か』において、一九七〇年前後に隆盛を誇っていた「モダニズム」の一枚岩的な塊に対して、小さくてもいいからいくつかの風穴をあけ亀裂を入れない」と自らが放った「矢の先端は彼（前川）の建築家としての身体に届いていなかったのではないか」と自省的に記したのだ。そして、むしろ、前川が求めたのは、「生まれた土地の（言葉）、土地本来の、その土地の言葉を使った」「ヴァナキユラー建築」「それぞれの場所、風土に土着、密着した諸建築」だったのではないかと、そこに、対比的に見ていた村野とも共通する建築思想を読み取っていく。

こうして、長谷川は、前川論の末尾に、前川が、「自然環境と共生しながら、人間のスケールを持ち、人間の心が通う建物、つまり「建築」を、何らかの形で近代（現在）」という時点において創りだそうと模索、苦闘する「建築家」だったと書き留めたのである。実は、こう記すことになる長谷川は、東京都美術館が岡田信一郎の代表作である東京府美術館（一九二六年）の建て替えだったため、その着工直前に、「近代建築が様式建築を打ち破って勝利をおさめる」という茶番劇はもうたくさんだ」（『新建築』一九七二年十一月号）と抗議の言葉を記していた。この記述からも、長谷川にとって、前川の建築をどう捉えるかは、長年の課題だったことが見えてくる。また、私事ながら、この二〇〇八年の長谷川の前川論は、筆者にとって、前川國男の戦前期の建築思想解明をテーマに格闘中だった

た博士論文に最大の励ましを与えてくれた論考でもあった。だからこそ、待ち望んでいた対談であり、当日は、「前川さんは、自分の建築を通して、それを利用する人やそれを所有する人たちに何かを語りかけようとしているんだと思う」と語る長谷川さんの発言に、うなずくばかりだった。そして、その後、参加者と共に館内を巡りながら、美術館の大きな特徴であるロビーの天井を覆うアーチ状の重厚なプレキャスト・コンクリート板や、打放しコンクリートの骨太な柱と梁に施された職人の手作業による研り仕上げの質感について、楽しく語り合うこともできた。

さて、今回何よりも感銘を覚えたのは、この対談が起点となつて、二〇一二年から建築ツアーが館の事業としてスタートしたと聞いたことだ。その引率は、東京芸術大学との共同事業「とびらプロジェクト」で活動するアート・コミュニケータの希望者が務め、「都美（東京都美術館）」の「新しい扉（とびら）」を開く能動的プレイヤー「とびラー」として巣立った修了生は三〇〇名を数え、建築ツアーを率いていたとびラーには、前川の神奈川県立音楽堂や埼玉会館の発信活動に携わるメンバーもいるという。そして、長谷川さんとの対談を企画し、建築ツアーを立ち上げ、今回の講座で対談した学芸員の河野佑美さんは、長谷川さんの教え子でもあった。こうして、社会に開かれた発信活動の拠点として時を重ねてきたからに違いない。東京都美術館は生き生きとした現役感を醸し出していた。その姿に、遠く前川さんと長谷川さんを思う一日となった。

最高の意匠を創造する塗装システム

G-PFシステム® 特殊描画

長年打ち放しコンクリートの色合わせ補修で培ってきた模様描画技術を応用し、塗装の可能性を広げます。最高の意匠性を創造していく新しい塗装システムになります。



桜新町IIプロジェクト（東京都）／施工：2022年／設計：ベルセン建築計画／元請：神興建設



目黒区南3丁目計画工事（東京都）
施工：2021年
設計：奥野公章建築設計室
元請：橋本組

“メーカー”の枠を超えた高度な施工。

改修▷G-PFシステム® | 打ち放しコンクリート調描画工法光触媒コート仕上げ

老朽化した打ち放しコンクリート外壁を新築同様に再生。長年培った汎用性フッ素樹脂の技術を応用し、これまでほぼ不可能とされてきた技術を実現しました。

新築▷N-RCシステム | フッ素樹脂光触媒クリアー仕上げ

独自の外壁コーティング材「ピュアコート®」を使用し、コンクリートの風合いをそのままに濡れ肌を防止し、その美観を長期間維持します。

※「ピュアコート®」・「G-PFシステム®」は株式会社ピアレックス・テクノロジーズの登録商標です。

株式会社ピアレックス・テクノロジーズ

[本 社] 〒595-0016 大阪府泉大津市条南町4-14
Tel:0725-22-5361 / Fax:0725-22-5363

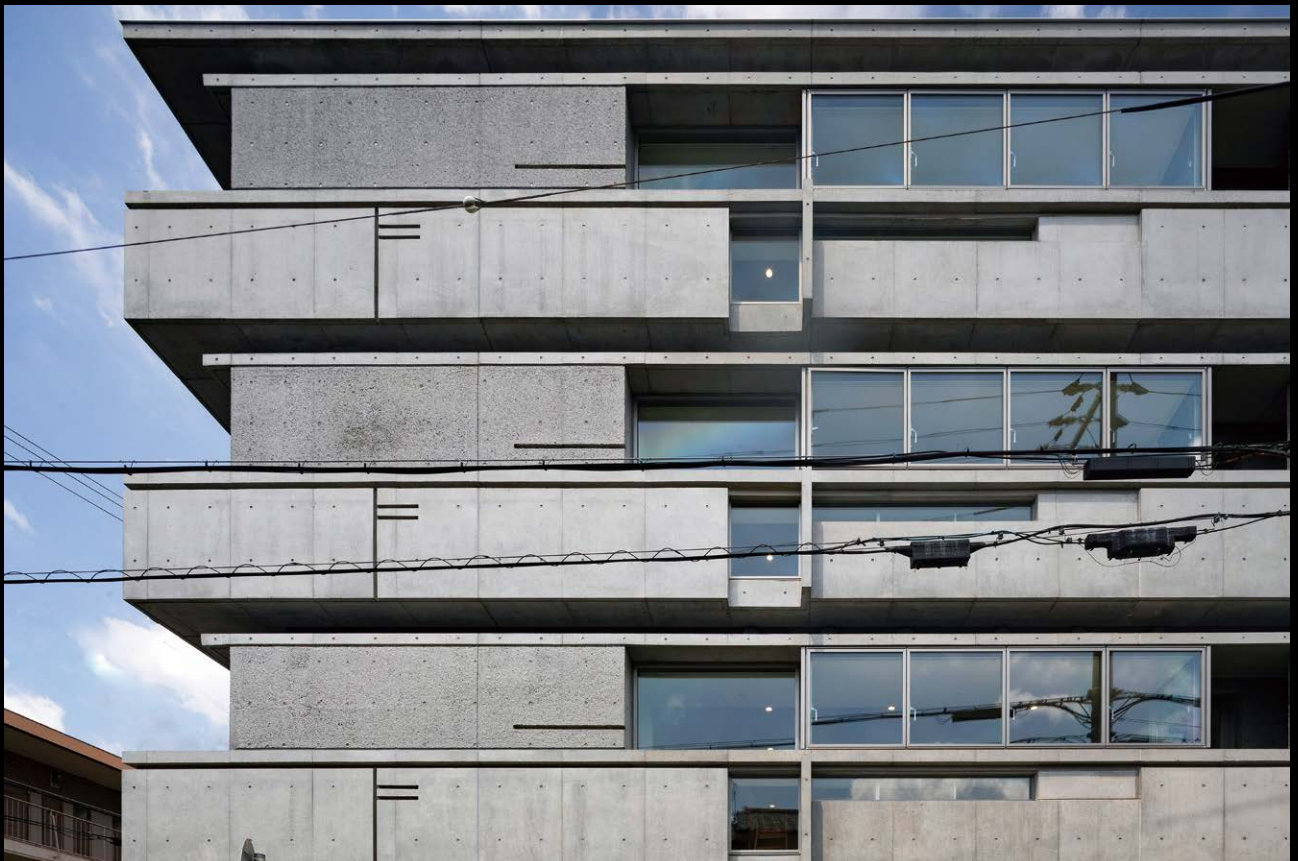
[東京営業所] 〒111-0042 東京都台東区寿3-14-11
蔵前チヨダビル7階
Tel:03-5830-0055 / Fax:03-5830-0056

www.pialex.co.jp

 **PIALEX TECHNOLOGIES**



南東面外観



東面ファサード